

2009年度 社会・環境報告書



生協ひろしま

目次

「社会・環境報告書」の発行にあたって…………… 01

生協ひろしまの事業概況…………… 02

第 1 部 社会貢献活動

取り組みの年表…………… 05

食の安全・安心…………… 06

地産地消の取り組み…………… 08

社会活動 …………… 10

平和・福祉の取り組み…………… 13

第 2 部 統合マネジメント

基本理念・行動規範・IMS 方針 …………… 15

2008 年度の IMS 目標の結果 …………… 17

マテリアルフロー …………… 18

環境保全活動 …………… 20

2008 年度 環境会計…………… 23

個人情報・労働安全衛生の取り組み…………… 24

内部監査、更新審査、コンプライアンス委員会 …… 25

「社会・環境報告書」の発行にあたって

専務理事 横山 弘成



生協ひろしまは、2006年度第22回通常総代会において社会的責任経営の推進を宣言し、仕事の仕方や組合員活動のあり方を見直すとともに、それまでの環境マネジメントシステムを基礎とした環境保全活動の管理システムを、業務品質の向上、個人情報保護、労働安全衛生など総合的な管理業務についても目的・目標を定めて取り組みを進める「統合マネジメントシステム」として再構築し、全ての仕事でPDCAによるマネジメントを行うことで、総合的な業務改善を進めてきました。

生協ひろしまが社会的な責任を果たしていくためには、商品供給や共済、福祉、文化サービスやハウジング等の事業を通じて組合員ニーズに応えていくこと、もう一つは、生協ひろしまの大きな特徴の一つである、地域の中での組合員同士の交流や様々な組合員活動を通じた消費者の社会参加の促進と、組合員の生活文化向上による社会への貢献が重要であると考えています。

今年度は新規事業として、急速に進む高齢化社会の中で、お年寄りのくらしをサポートするために、8月より夕食弁当の宅配サービスとして「おもしろコブ弁当便」の事業を開始します。また、世界全体では食糧や水の逼迫が重要な問題になっている中で、国内の食料自給率を高めるための課題や県内農業の活性化を目指す取り組みの一つとして、JAグループと協力しながら農業生産法人の設立に向けた準備も開始しました。

また、地球温暖化対策としては、2002年度よりCO₂排出量削減の取り組みを進めてきましたが、今年度はさらに店舗での太陽光発電施設の設置やLED照明の導入、無店舗事業でのアイドリಂಗストップ車両、バイオディーゼル車両の配置など省エネ設備や機器などを積極的に導入していく予定です。今後もCO₂排出量の削減に向けては、事業者としての責任を明らかにするため、4月より「省エネ総合計画（3ヵ年）」を策定し、段階的に取り組みを強化していきます。

さらに、地域での食料資源の有効活用に取り組むフードバンク事業に協力するため、今年の2月から店舗での管理基準（消費期限の2/3）を超えた商品の一部を「NPO法人フードバンク広島」に提供し、その商品を福祉施設等にお渡しして、食料品の有効利用を図る取り組みも開始しています。

今後も、組合員の日々のくらしに役立つ事業や、地域での組合員活動を一層強力に進めていく所存です。

引き続き、みなさまからのご指導、ご鞭撻を宜しく願いいたします。

2009年8月

生協ひろしまの概況

■生 協 名	生活協同組合ひろしま
■本部事務所	広島県廿日市市大野原1-2-10
■活動エリア	広島県全域
■設 立	1971年5月
■理 事 長	林 辰也
■組 合 員 数	36.4万世帯（前年比102％）
■出 資 金	123.3億円（前年比101.6％）
■事 務 所	支所16 店舗10 商品センター1 子会社【コープサービス(株)、コープハウジング(株)、(株)ハートコープひろしま】 訪問介護事業所8、居宅介護事業所7、デイサービス事業所3、小規模多機能事業所1
■主 な 活 動	○事業活動 食料品から日用雑貨品まで生活必需品を店舗および注文カタログを通じて組合員にお届けする事業 組合員世帯を対象にしたCOOP共済加入の推進、チケット、提携サービス、 トラベル等のサービス事業、住宅リフォーム中心のハウジング事業 利用者を対象にした介護およびデイサービスに関する事業 ○組合員活動 くらしの中で生協が役立つよう、またくらしに必要な知識を得るために学習したりする活動 （食育、環境、平和、助け合い、商品活動、地産地消など）
■職 員 数	正規654人 定時職員1,623人 福祉専門職119人 ヘルパー登録507人
■供 給 高	438.6億円（前年比98.2％） 共同購入他 341.7億円（前年比99.9％） 店 舗 96.9億円（前年比92.6％）

（2009年3月現在）

生協ひろしまの事業概況

生協ひろしまは、共同購入・個別配送などの無店舗事業を中心に、店舗、共済、福祉の事業を行っています。また、コープサービスやコープハウジングなどの子会社による事業活動を通じて、組合員の豊かなくらしづくりに貢献していくことを目指しています。

無店舗事業

無店舗事業は、広島県内に16支所の商品配送センターがあり、約17万世帯の組合員に毎週、決まった曜日の決まった時間に商品をお届けしています。商品の配送形態は、“班”を単位に商品をお届けする「共同購入」、個人宅に商品をお届けする「個人別配送」、配送センターや店舗等で受け取る「地域受取」があります。配送利用者は、「個人別配送」が全体の54%を占め引き続き高まっています。

商品の注文方法は、マークシートの注文用紙、電話・FAX、インターネット受注があります。



組合員サービスセンター

組合員さんからの注文を受ける“注文センター（2004年3月開設）”とクレーム等を受付ける“問合せセンター（2007年2月）”があります。

問合せセンターでは、1週間に約4,000件を超える問合せがあり、寄せられた組合員の声をもとに、2008年度は36件の業務改善を行いました。



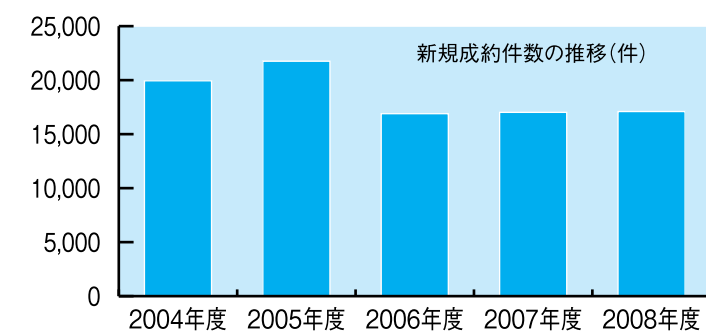
店舗事業

店舗事業は10店舗（広島市に6店舗、呉市に2店舗、福山市に1店舗、東広島市に1店舗）で食品を中心とした生活必需品の商品供給を行っています。各店舗では、「地産地消」の取り組みや牛乳パック等の容器包装の店頭回収や買い物袋の持参の呼びかけを行っています。また、店舗から排出される野菜くず等を堆肥化する等して、食品リサイクル率は58.9%となっています。



共済事業

日本コープ共済生活協同組合連合会の受託事業として、「たすけあい」、「あいぶらす」、「あいあい」、「火災共済」の4種類の商品で成約件数は184,114件となっています。成約された組合員に給付もれがないかを定期的に聞き取りを行う等して、成約者の立場に立った取り組みをしています。また、生活設計の要望に応じて、個別訪問や生協ひろしま店舗で「コープ共済相談会」、「個人保障相談会」、「保障の見直し学習会」を実施しています。



福祉事業

介護保険の要支援・要介護認定を受けられた方にホームヘルパーの派遣等を行う訪問介護、ケアプランの作成等を行う居宅介護支援、利用者が日帰りでご利用いただくデイサービス、「通い」を中心に「泊まり」「訪問」を組み合わせた小規模多機能型居宅介護、福祉用具の貸与・販売、そして障害者の方への自立支援サービスを行っています。

事業所数は、広島県内で訪問介護8事業所、居宅介護7事業所、デイサービス3事業所、小規模多機能1事業所です。



コープサービス(株)

生協組合員の幅広い生活ニーズに応えるために、チケット販売事業、サービス提携斡旋事業、旅行代理店事業、保険代理店事業、葬祭提携事業など、組合員さんの要望と社会の情勢に合わせたサービスを提供しています。



コープハウジングひろしま(株)

増改築、外壁塗装、水まわりなど住宅やマンションのリフォーム、住宅の新築工事等を元請となっております。職員への省エネ診断員養成研修を行い、省エネ対策として注目を受けている住宅省エネ相談も行っています。



(株)ハートコープひろしま

全国的にも雇用が進んでいない知的障がい者を雇用する会社として生協ひろしまの100%出資の子会社として設立しました。

生協ひろしま農産センター内で手作業による農産品の検品や袋詰め作業で、知的障がい者5名とパート社員、管理者の合計7名で業務を開始しました。



環境・社会貢献活動の主な取り組み年表

1990 年度から 2008 年度までの環境・社会貢献活動について年度別に紹介します。2008 年度は一部店舗でレジ袋の無料配布中止やフードバンクの取り組みを開始しました。

年 度	主な取り組み内容
1990年度	● ボランティアで牛乳パックの回収始まる
1991年度	● インストアラップをポリエチレン素材に切り替える
1992年度	● 店舗でトレイの回収を開始
1993年度	● 配送トラックにLPG車をテスト導入
1994年度	● マルイたまご容器を「A-PET」に切替えリサイクル開始
1995年度	● 買い物袋持参のスタンプ制度導入
1996年度	● 生ゴミ処理機をコープ焼山に実験導入(1999年中止)
1997年度	● 共同購入でトレイの回収開始
1998年度	● 店舗でPETボトルの回収開始
1999年度	● 新店に冷氣回収空調、省エネ型ショーケースと大野事務所にエコアイスを導入
2000年度	● 廃プラ(PET)素材の制服導入 ● 配布印刷物に使用するインキを植物性インキへ切替え
2001年度	● ISO14001 認証取得 ● 共同購入で配布したチラシ類や色付トレイの回収開始
2002年度	● 店舗生ゴミの堆肥化開始 ● シッパー内袋・ポリエステル衣類の回収開始
2003年度	● 地球温暖化対策自主行動計画策定 ● 広島商品センターが「広島市ごみ減量優良事業者表彰」受賞
2004年度	● 広島商品センターで発砲スチロールを減容する減容機器を導入 ● コープ安東が「広島市ごみ減量優良事業者表彰」受賞
2005年度	● 広島商品センターにプラスチック圧縮機を導入し、PE・PPのリサイクル開始
2006年度	● 環境省委託事業「バイオマスエネルギー導入の東広島モデル事業」参加 ● 環境省委託事業「H18年度地球協同実施排出抑制対策推進モデル事業」受託 ● 総代会で“CSR経営の推進”の方針を提起
2007年度	● 「バイオマスエネルギー導入の東広島モデル事業」で組合員から廃食油の回収し 広島大学農場内のバイオマス資源化施設に持ち込み開始 ● レジ袋有料化実験の4者協定に調印
2008年度	● 店舗で透明トレイの回収を開始 ● コープ船越が「広島市ごみ減量優良事業者表彰」、コープハモンズが「ふくやま環境賞」受賞 ● レジ袋無料配布中止 コープ安東(2008年4月1日)、コープ高陽(2009年2月1日) コープ焼山・コープミニ政畝(2009年6月1日)から開始 ● 「フードバンク広島」へ余剰商品の提供開始

食の安全・安心

食の安全確保に関わる生協ひろしまの取り組み

2008年度「実現したいこと」として、通常総代会で議決された下記の項目に沿って取り組みを行いました。

1. 安全な商品の提供をするために、「原料」「製造」「お届け」すべての面で様々な取り組みをすすめます。
2. 私たちの「食」や「農」を守り育てるために、地産地消・産直の活動を一層すすめるとともに、自給率や農産の状況について学び、意見を交わし、提言をおこないます。
3. 事業改革を進め、利益を組合員のために有効に活用します。
4. より多くの組合員が活動に参加できるよう、組合員活動の見直しをすすめます。
5. 生協間・他団体との連携をさらにすすめていくと同時に、食育・環境・平和・福祉など様々な活動を通じて地域に貢献します。
6. 社会的責任経営（CSR）の確立を一層進め、地域社会における生協の役割を果たします。

具体的な取り組み

当面の中国製加工食品の取り扱いについて以下の緊急対策を実施しました。

1. 中国産の商品・原料についての取り扱いの見直しを行いました。
中国で最終加工・生産している商品について、コープ商品も含め、すべての商品の企画・供給・販売を、品揃え上必要なものを除いて、見合わせています。
2. 今回の問題をただ単に商品事故としてとらえず、「組織のあり方を問う問題」として組合員さんと一緒になって総合的に取り組みを行いました。
 - ①可能なものについては、国内産や国内加工への切り替え検討等の商品のあり方を見直し。
 - ②商品検査の頻度を増やす等の検査体制を強める。
 - ③これまで築いてきた生産者さんとの結びつきをさらに強める等により国内自給率向上への貢献を強める。
 - ④重大事故発生を未然に防ぐ業務と作業の仕組みを構築する等の組織体制やルールを見直し、また第三者からの評価をいただきながら精度を高める。

商品検査

残留農薬検査、微生物検査等を実施

コープCSネットへの委託分5,405品目の検査とは別に、生協ひろしまの独自検査を追加し、店舗の生鮮野菜や一般メーカー122品目の加工品を検査しましたが、問題は認められませんでした。今後も、商品仕様や生産・製造現場の点検とともに、抜き取り検査を精査・強化し、より安全な食の提供につなげていきます。



▼2008年度 残留農薬検査等の自主検査結果

部 門	検出せず	基準値内
日 配	5	—
冷凍商品	7	—
農 産	57	30
水 産	12	—
惣 菜	2	—
食 品	7	—
計	120検体	—

(2008年4月1日～2009年3月31日)
※基準値内とは、国で決められた基準値の範囲内です。

組合員への食品に関する情報提供

組合員と一緒に食と農を考えるために、食と農を考える情報誌「たねまき」を2008年6月から隔月で発行しています。毎回テーマをもって組合員へ情報提供を行いました。

発行日	テーマ
vol.1 2008年 6月発行	お米から考える、日本の食料自給率と農業
vol.2 8月発行	地理学の視点から、世界の食と農を考える
vol.3 10月発行	検査機関でわかること・発信すること
vol.4 12月発行	広島市場から見た、魚をめぐる世界情勢
vol.5 2009年02月発行	広島の農業を、活性化するために
vol.6 4月発行	私たち消費者の責務を知り、実践していく



食の安全シンポジウム

11月15日、広島市内で「食のシンポジウム」が開催され、約300名の組合員さん、職員等が参加し、消費者、生産者、販売者など、さまざまな立場から「食の安全確保」のために何が必要か考えました。

基調講演として全国消費者団体連絡協議会事務局長の阿南久様にテーマ「私たちの食のゆくえ」として、消費者自身も命に対する感謝を伝承する場を作る等、消費に対して責任を負うことが必要であるとお話しをいただきました。

パネルディスカッションでは、テーマ「日本の食の現状と今後のゆくえ」として、消費者、製造者、生産者、販売者の立場から、それぞれ思いを交流いたしました。



たべる、たいせつフェスティバルを開催

「おいしいね♪ はずむ笑顔 ☺ みんなの食卓」をテーマに、生協ひろしまの「食」に関する取り組みをお知らせし、生産者さんと組合員さんの交流を深める祭典を3月14日に広島サンプラザホールで行いました。

当日、10,120名の参加があり、消費者（組合員）や生産者、製造者、関連団体と協力し、多くの組合員さん等に「食」に関する取り組みをお知らせしました。



1万人を超える来場者がありました

「生協ひろしま広島県農業生産者支援制度」を設けました

生協ひろしまでは、地産地消を推進する中で、広島県の農業が自立的かつ継続的に発展し、県内で先進的な取り組みやこだわりを持って生産されている農業団体及び個人の支援制度設立を実施し、たべるたいせつフェスティバルの会場で表彰を行いました。



地産地消の取り組み

産地開発

JAをはじめ各生産者団体との連携を深め、地産地消商品を増やしています。2008年度には県内の産地と、南瓜・千浜人参・イエローミニトマト・里芋・ホルンパプリカの契約栽培に取り組みました。2008年度は農産・水産・畜産・惣菜・日配・食品の各部門であわせて82アイテムの県内産品の新規導入ができました。



店舗での地場近郊野菜の取扱い

2006年度より、JAを介し地場近郊野菜の売り場を設けており、2007年度からは全店で開催し、2008年度は1億円の供給がありました。



生産者との交流

生産者と組合員の交流を積極的に行い、2008年度は田植えや牛乳交流会、農産品の産地交流等、11,093名の参加がありました。



組合員の産地視察一覧

視 察 先	代 表 商 品 名
(株) 海 工 房	CO・OP博多仕込み辛子明太子(福岡県)
一 品 香 食 品 (株)	コープフェイスジャンボ肉ぎょうざ(福岡県)
(株) シ ー サ ッ ト	コープフェイスさばみりん(山口県)
錦 町 農 産 加 工 (株)	CO・OP国産生芋こんにやく(板・糸)(山口県)
(株) 椿 き 家	コープフェイス国産大豆充てんにがり豆腐(広島県)
さ ぬ き 丸 一 製 麵 (株)	コープフェイス冷凍讃岐うどん(香川県)
J A 広 島 市	芸北トマト(広島県山県郡)
J A 福 山 市	沼隈ニューベリーA(広島県福山市)
J A 広 島 中 央	ジャンボピーマン・なす(広島県東広島市)
(株) ヨ コ オ フ ー ズ	みつせ鶏(佐賀県)
J A さ が	国産大豆(もめん豆腐原料)
J A 越 後 中 央	生協米こしひかり(新潟県)
ホ ク チ ク フ ァ ーム	産直つるい牛(北海道)
J A 庄 原	千浜人参(庄原市)
(有) 佐 々 木 農 場	有機野菜(島根県)
大山乳業農業協同組合	コープフェイス産直・鳥取大山牛乳・CO・OP大山ヨーグルト(鳥取県)
(株) 井 ゲ タ 竹 内	CO・OP恩納村産直味付太もずく・沖縄糸もずく・CO・OP淡塩さば(鳥取県)
(株) ダ イ マ ツ	CO・OPシルバーしょう油漬(鳥取県)



職員の産地視察一覧

視 察 先	代 表 商 品 名
JA広島北グリーンカルチャークラブ	水耕栽培県内産青ねぎ(安芸高田市)
(株) 海 工 房	CO・OP博多仕込み辛子明太子(福岡県)
(株) ヨ コ オ フ ー ズ	みつせ鶏(佐賀県)
東 洋 乳 業 (株)	産直3.5牛乳高野・備北の恵み(広島市)
世 羅 フ ァ ーム	生協産直たまご(世羅郡)
ホ ク チ ク フ ァ ーム	産直つるい牛(北海道)
(株) シ ー サ ッ ト	CO・OPさわらのみそ漬・天然ブリ切身(山口県)
錦 町 農 産 加 工 (株)	CO・OP国産生芋こんにやく(板・糸)(山口県)
大山乳業農業協同組合	コープフェイス産直・鳥取大山牛乳・CO・OP大山ヨーグルト(鳥取県)
(株) 井 ゲ タ 竹 内	CO・OP恩納村産直味付太もずく・沖縄糸もずく・CO・OP淡塩さば(鳥取県)
(株) ダ イ マ ツ	CO・OPシルバーしょう油漬(鳥取県)
(株) 椿 き 家	コープフェイス国産大豆充てんにがり豆腐(広島県)
さ ぬ き 丸 一 製 麵 (株)	コープフェイス冷凍讃岐うどん(香川県)
大 崎 上 島 青 果 場	大崎上島みかん(豊田郡)
広島県漁業協同組合連合会	コープフェイス生かき(生食・加熱用)(広島市)



職員米づくり(農業体験)

商品について理解を深め、より身近に感じることができるよう、職員有志が「米作りの会」を発足、田植えから稲刈りを体験しました。

場所は、石見高原こしひかりでお馴染みの島根県邑南町。JA島根おおちの皆様にご協力をいただき、約1トンの「こしひかりハーブ米」を作ることができました。

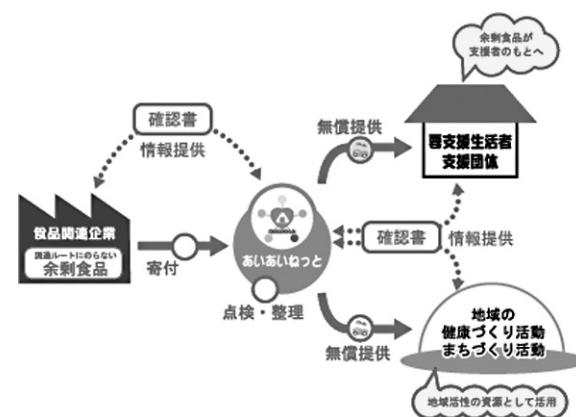


社会活動

フードバンク事業に参加

日本の食の現場では、まだ食べ物としての役割を担えるにもかかわらず、生産過剰、包装時の損傷や賞味期限切れが迫るなどの理由で、食品が大量に廃棄され、生活困窮者に対して食事提供している非営利活動団体が、公費による助成削減や景気低迷による寄付の減少によって、食材調達の経費捻出が困難になっています。

そこで商品管理基準を超えた賞味期限内の商品提供を、フードバンク事業を主幹事業としている「NPO法人あいあいねっと」に行っています。2009年2月から2店舗で提供を開始しており、今後も対象の店舗を広げていく予定です。



商品提供実績		単位:kg	
店舗	09年2月	09年3月	合計
コープ高陽	8.2	93.3	101.5
コープ安東	55.3	140.3	195.6

減災活動と災害時支援協定

生協ひろしまでは、2008年9月5日に広島市安佐南区自主防災会連合会と、災害時に連携と支援を行う協定を結びました。

災害発生当初は地域の自助・公助の活動が最も有効的な支援となります。安佐南区内で災害が発生した際には、コープ安東と安佐南支所を主体として、飲料水やレトルト食品などの提供や、集会室や調理施設の利用を提供します。



広島市及び広島県主催の総合防災訓練に参加しました

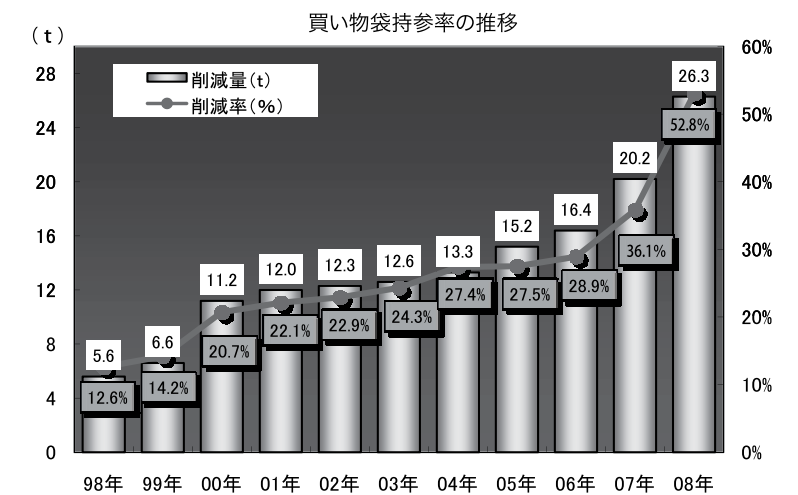
- 広島市総合防災訓練
2008年9月11日
- 広島県総合防災訓練
2008年10月21日

緊急支援物資の輸送の
訓練を行いました



買い物袋持参率

生協ひろしまの店舗では、1995年からマイバッグの持参を呼び掛けてきました。その結果、オリジナルマイバック・マイバスケットの普及や再利用カードの利用促進により、持参率は年々上昇し、2007年度36.1%から2008年度は52.8%と大幅に高まりました。



今年度より行政や消費者団体とレジ袋無料配布中止の協定を結び、2008年4月1日よりコープ安東でレジ袋の無料配布の中止を開始したのを皮切りに、2009年2月1日からはコープ高陽、2009年6月1日からはコープ焼山、コープミニ政敵が無料配布の中止を開始しました。レジ袋は1枚5円で販売をしています。

レジ袋無料配布中止後は、90%前後の持参率で推移しています。



開始	対象地域	対象店舗	無料配布中止後の平均持参率
2008年4月1日	広島市安佐南区	コープ安東	87.8%
2009年2月1日	広島市安佐北区	コープ高陽	90.3%
2009年6月1日	呉市	コープ焼山	91.3%
〃	〃	コープミニ政敵	95.0%



レジ袋の販売益の活用

レジ袋の販売益204,115円は、配送センターの三次支所にペレットストーブ1台を導入し、省エネ効果を実証する実験に活用します。

環境に関する賞を受賞

2008年度、コープ船越、コープハモンズ食彩館が行政より環境の取り組みに対して賞をいただきました。

広島市ゴミ減量化優良事業表彰を受賞

コープ船越が、廃棄物の減量化や再資源化に積極的に取り組みをしている事業者として、広島市より表彰を受けました。



ふくやま環境賞を受賞

福山市駅家町にあるコープハモンズ食彩館が、第1回「ふくやま環境賞」を受賞しました。「3R推進」など、環境にやさしい取り組みをすすめたことに対し贈られました。



モデル事業

東広島モデル事業

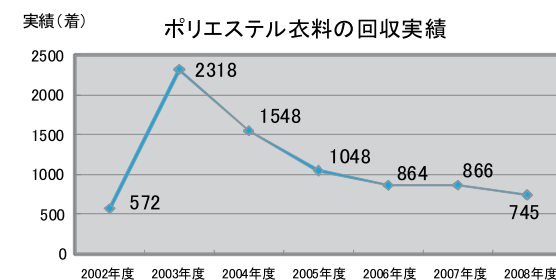
2006年4月～2009年2月で環境省の委託事業の、「都市型バイオマスエネルギー導入技術に係る学園都市東広島モデルの技術開発・実証事業」に生協ひろしまは商品配送を利用し、組合員からの廃食油回収をしました。

2008年間の1年間の回収量は1,064ℓ、登録人数は320人になりました。2009年度も引き続き回収を行います。



ポリエステル衣料回収

ポリエステル衣料のリサイクルは“備後エコタウン構想”の一環として位置づけられ、エコログ・リサイクリング・ジャパンにより、コープハモンズ店頭で受付をスタートしました。現在は、隔月の第3土曜日にコープハモンズの店頭で回収しています。



NPO消費者ネット

NPO消費者ネット広島は、全国で5番目に設立された適格消費者団体です。消費者の権利擁護を目的として、消費者、消費者団体、消費生活相談員、学者、弁護士、行政書士らが集り1995年に設立し、2003年に法人化されました。消費者庁の設立を控えて、消費者の受け皿として消費者ネットの役割はますます重要になります。生協ひろしまは、NPO消費者ネットに対し、2008年7月に支援募金を行いました。

平和・福祉の取り組み

折りづるナイター

8月26日、広島市民球場から核兵器廃絶を訴える「折りづるナイター」が、(財)広島平和文化センターと生協ひろしまの協力で開催されました。試合前、球場周辺で署名活動を行い、3,721筆の署名を集めることができました。球場内では、試合途中に観客の16,010名がボードを掲げて核兵器廃絶をアピールし、球場はグリーン1色に染まりました。

また平和へのメッセージをアストロビジョンでもアピールしました。



平和行進

県内各地で平和の思いを胸にみんなで歩く平和行進を行い、のべ590名の参加がありました。



ヒロシマ虹のひろば

8月5日、広島グリーンアリーナで被爆の証言や、合唱、全国の生協の平和活動の展示等を行う“2008ピースアクションinヒロシマ虹のひろば”がありました。

全国から57生協、約1,200名の参加があり、平和活動を通じて交流を深めました。



碑めぐりガイド

碑めぐりガイドは、組合員のボランティアグループで、広島市内各所に点在する、被爆の実相を伝える「碑」をめぐり、そのいわれと「碑」に込められた「思い」を案内し、後世の人たちにヒロシマを語り継いでいます。

2008年度は109団体、9,577名の方のガイドを行いました。



ちびっこ広場

2007年7月より子育て支援の一環として、親子が集まり交流できるフリースペース「ちびっこひろば」の取り組みを店舗の集会室でおこなっており、子育ての悩みなどを共有する場として組合員ボランティアを中心に開催しています。

現在、生協ひろしまの5店舗で定期的で開催されていますが、核家族化がすすむ中で地域等からの要望も強く、今後さらに広げていく予定です。

2008年度は3店舗で42回、のべ529名の方が参加されました。



●生協ひろしまの基本理念●

「私たちは、協同の力で、より豊かなくらしの創造と平和な社会づくりに貢献します。」

●21世紀ビジョン●

「日々の暮らしに役立つ生協づくり」

●生協づくりの3つのテーマ●

- ①「暮らしに役立つ商品づくりを進めます」
- ②「だれもが利用できる事業を進めます」
- ③「だれもが参加でき、共に学び育つことのできる場づくりを進めます」

くらしの助け合いの会

産前産後の家事援助からスタートしたくらしの助け合いの会。組合員同士が助け合う会で、病気やけが、高齢の方、出産前後など困った時に掃除、洗濯、食事づくり、買い物や話し相手、付き添い（散歩、通院など）等の活動をしています。会員は大きな家族、助け合いの精神を大事にしており、これまで10年間に、3万時間を超える活動をしています。

くらしの助けあいの会 全体のつどい

広島市内で「くらしの助け合いの会 全体つどい」が開催され、97名の会員が参加しました。つどいでは、助けあい活動を広げていくための提言などがありました。今後も「お互い様」の気持ちを大切にしていけることが確認されました。

署名・募金

2008年度に行った主な署名・募金一覧

2008年度は下記の署名・募金を行いました。

「都市を攻撃目標にするな(CANT)プロジェクト」署名	70,576筆
核兵器禁止条約の早期締結を求める請願署名	43,553筆
小規模作業所制度拡充(第32次国会請願)署名	13,753筆

- 4/23 「被爆者支援募金」を被爆者支援団体へ贈呈
- 5/23 「小規模作業所募金」をきょうされん広島県支部へ贈呈
- 6/6 「ユニセフ募金」を(財)日本ユニセフ協会へ贈呈
- 6/25 「ミャンマー・サイクロン、中国四川大地震被災者支援募金」を(財)日本ユニセフ協会へ贈呈
- 7/16 「岩手・宮城内陸地震被災者緊急支援募金」を日本赤十字社広島県支部に寄託
- 7/24 「NPO法人消費者ネット広島」へ支援金を贈呈



行動規範

行動規範の前文

私たちは、基本理念を基に、生協ひろしまで働く職員のとるべき行動基準として、一つひとつの行動が組合員へどうお役立ちできるかということを常に考えて行動します。

私たちの誠実な行動をとおして組合員の満足度を高め、生協ひろしまが地域になくてはならない存在となるために、優れた商品と真のサービスを提供し続けます。

一. 信頼づくり

私たちは、規律を順守し、徹底した商品管理と品質向上に努め 安全・安心を提供し続けます。

一. 人とのつながり

私たちは、感謝の気持ちを大切にし、相手の立場にたった思いやりの気持ちを持ちます。

一. 責任感

私たちは、現状に甘んじることのない強い信念を持ち、生協人としての責任と義務を果たします。

一. 成長

私たちは、目標に向かって自分自身を磨く努力をおこない、自ら成長し続けます。

一. 地域への貢献

私たちは、地域とのふれあいを大切にし、地域活動にも積極的に参加し、地域社会に貢献します。

2009年度の「統合マネジメント方針」

生協ひろしまは、生活必需品を中心とした商品供給事業及び共済、福祉、文化、リフォームのサービス事業並びに組合員活動を通じて豊かなくらしづくりに貢献します。また、広島の地に根ざし、環境保全など社会的に要求される事業と活動を推進していきます。

商品供給・サービス事業及び組合員活動で発生する業務リスクや貢献度を環境、品質・食品安全、情報セキュリティ、労働安全衛生の各側面で評価を行い、評価に基づいて重点運用管理項目を定め、目的・目標及び日常運用を行っています。

重点運用管理項目を定期的に見直すことにより、業務リスク及び環境負荷の軽減並びに汚染・事故の防止を行うとともに、統合マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

生協ひろしまの事業活動に関わる法規制並びに生協ひろしまが決めた約束事項を順守すると同時に、下記の環境、品質・食品安全、情報セキュリティ、労働安全衛生の各方針に取り組みます。

1. 環境の取り組み

- 環境に配慮した商品・サービスを組合員に提供していきます。
- 業務効率の向上と省エネ推進により事業活動によるCO2排出を抑制します。
- 廃棄物の発生抑制と資源の有効利用を促進します。
- 組合員参加のリサイクル・買い物袋持参及び環境保全活動を推進します。

2. 品質及び食品安全の取り組み

- 関連法規の順守と商品管理を強め、食品安全を徹底します。
- 商品知識やカスタマーサービスなど職員品質の向上を図ります。
- クレームの発生原因を追究し、クレーム削減に取り組みます。
- 組合員の声に応えて、業務内容及び商品・サービスの見直しを進めます。

3. 情報セキュリティの取り組み

- 個人情報、利用目的を明らかにして、適正に収集し、適切に利用します。
- 個人情報の紛失、改ざん、漏えいを防止するための安全対策を徹底します。
- 業務に関する情報資産の管理を強めていきます。

4. 労働安全衛生の取り組み

- 健康診断やメンタルヘルスを含む健康相談の実施など、職員の健康増進を進めます。
- 交通事故を含む労働災害の発生原因を追求し、労災事故削減に取り組みます。
- 労働時間及び休日取得の管理を強めます。
- 業務上の事故緊急事態を想定した対応訓練を行います。

以上の活動を進めるために、職員の教育訓練と内部コミュニケーションを強め、職員一丸となった取り組みを進めます。また、この統合マネジメント方針は、「社会・環境報告書」にて内外に公表します。

2009年6月11日
生活協同組合ひろしま
専務理事 横山 弘成

2008年度のIMS目標の達成状況

2008年度は、36項目のIMS目標を設定し、PDCAのマネジメントサイクルで業務を行いました。結果23項目の目標達成が出来ました。下記に全項目と達成状況を報告します。

部 門	実施計画	目 標	単 位	08年度実績	判定
				累 計	
管理責任者	省エネ推進によるCO ₂ 原単位削減	年計24.44 t-CO ₂ /億円以下	t・CO ₂ /億円	25.40	×
無店舗事業部	業務効率UPによる総労働時間短縮	年計4,136 h /億円以下	h/億円	3,867	○
	クレーム原因を追究し、トラブル5種の件数削減	年計26,780件/年以下	件/年	19,633	○
店舗事業部	発注精度向上による廃棄ロス率の削減	ロス率1.19%以下	%	1.37	×
	店舗品質を高めることによる客数の向上	全店合計5,180千人以上	千人/全店	4,875	×
共済事業部	COOP共済の成約件数拡大	のべ件数188,243件以上	件	184,570	×
福祉事業部	訪問介護の不履行発生を削減	発生率0.056%以下	%	0.062	×
	訪問介護の利用者拡大	711人/月以上	人/月	695	×
	居宅支援事業の利用者拡大	410人/月以上	人/月	398	×
	デイサービスの利用者拡大	180人/月以上	人/月	128	×
Cサービス	コパルネットの受注拡大	のべ件数200,000件以上	のべ件	271,271	○
	保険の利用者拡大	年計のべ3,160件以上	のべ件	3,544	○
Cハウジング	省エネリフォームの拡大	年計のべ120件以上	のべ件	143	○
	省エネリフォームによるCO ₂ 削減	年間のべ24,720kg-CO ₂ 以上	のべkg-CO ₂	29,458	○
	「省エネ相談員」の養成等営業力量UP	のべ8人以上	のべ人	14	○
商 品 部	「地場近郊野菜・県内産品」新規導入を増やす	年計57アイテム以上	アイテム	82	○
人事総務部	事業所ゴミの再資源化率の向上	再資源化率75.0%以上	%	78.5	○
	労働時間管理(平均残業時間の削減)	180.2 h /年以下	h /年	150.9	○
	休日取得管理(休日・有休の規定取得率)	211人以下	人	360	×
	労働災害発生件数を減らす	年計52件以下	件	54	×
	安全衛生委員会の開催率を高める	開催率100%	%	100	○
	健康診断受診率100%	受診率100%	%	99.3	×
管 理 部	未収金残高の削減(削減金額)	削減金額863万円以上	万円	-41	×
	未収金の長期移管発生を抑制	移管発生率0.028%以下	%	0.035	×
	不正アクセスの点検実施	毎日実施	日	毎日	○
	情報セキュリティの脆弱性の予防措置	毎月実施	月	毎月	○
組合員 S C	問合せCの受電件数を業務改善に役立てる	12件/年以上	件	36	○
組織企画部	組合員の「食育」「地産地消・生産者交流」「環境保全・エコライフ」参加の場を増やす	年計9,000人以上	人	19,994	○
	組合員リサイクル参加によるCO ₂ 間接的削減	間接削減量4,840 t -CO ₂ 以上	t -CO ₂	5,163	○
	買い物袋持参率の向上	持参率45.2%以上	%	52.8	○
	「こーぷぱれっと」お便り返信の有効活用	年計36件以上	件	40	○
広島商品センター	広島商品センターの再資源化率の向上	再資源化率99.37%以上	%	99.81	○
	ドライグロッサリー商品セットミス率の削減	ミス率0.0090%以下	%	0.0088	○
	冷蔵商品セットミス率の削減	ミス率0.0090%以下	%	0.0076	○
	冷凍商品セットミス率の削減	ミス率0.0090%以下	%	0.0090	○
ハートコープ	ハートコープの不良出荷品の削減	60件/年以下	件/年	19	○

マテリアルフロー

1. 事業活動に伴うインプットとアウトプット

事業活動を行うことで使用するエネルギーや資材の使用量をインプット量、それによってCO₂や廃棄物の発生による排出、事業や組合員によりリサイクルされる量をアウトプット量として下記の表に表しています。

インプット				
区 分	項 目	インプット量	単位	前年比
エ ネ ル ギ ー	電気	22,172,859	k Wh	100.4%
	都市ガス	19,397	m ³	94.3%
	LP ガス	35,017	m ³	88.3%
	水道	80,087	m ³	90.9%
	灯油	29,516	ℓ	85.4%
	車両（軽油）	772,943	ℓ	98.5%
	車両（LPG）	138,721	ℓ	89.6%
	車両（ガソリン）	109,983	ℓ	104.2%
資 材	注文書等商品案内	6,095	t	101.6%
	シッパー内袋	98.9	t	93.2%
	買い物袋	18.2	t	64.3%
	トレイ	9.49	t	90.4%
	ラップ（インスタアー）	15.5	t	91.5%
	ドライアイス	2,607	t	103.9%

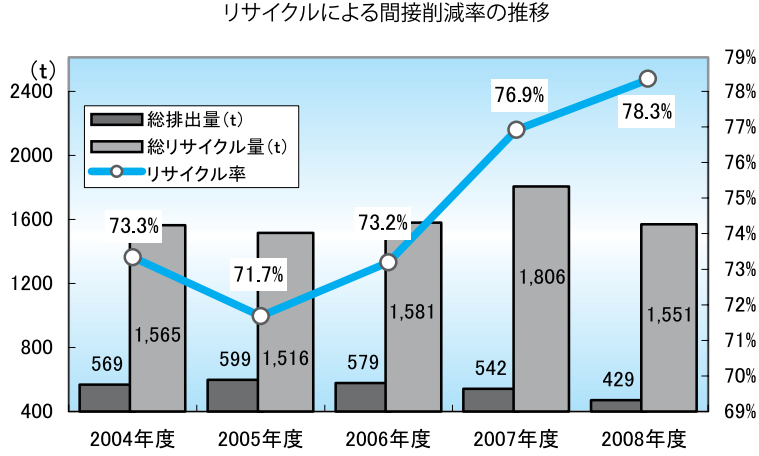
注）車両燃料は委託配送を含む

無店舗事業（16 支所）、店舗事業（10 店舗）、広島商品センター、大野事務所（CS ネットを含む）、組合員サービスセンター

アウトプット				
区 分	項 目	アウトプット量	単位	前年比
C O ₂ 排 出	CO ₂ 排出量	11,123	t -CO ₂	99.0%
廃 棄 物	プラスチック類	41.4	t	70.3%
	可燃ごみ	216.1	t	91.8%
	店舗等の生ごみ	170.3	t	68.5%
リサイクル（事業）	ダンボール	1372	t	95.4%
	プラスチック（PS）	22.4	t	270.0%
	プラスチック（PE・PP）	23.4	t	132.0%
	OCR+ 事務系紙類	123.0	t	109.0%
	店舗野菜くず等	116.5	t	126.2%
	ビン・缶類	10.5	t	104.0%
リサイクル（組合員）	卵パック	40.8	t	92.7%
	飲用パック	123.5	t	94.4%
	食品用トレイ	23.5	t	99.2%
	商品案内・チラシ	4039	t	107.9%
	シッパー内袋（PE）	54.9	t	96.0%
	PET ボトル	21.3	t	111.5%

2. 事業活動による総リサイクル率の推移

2008年度、店舗から排出される発泡スチロールを安芸区矢野新町の農産センターに減容機を置きリサイクルを開始したことや店舗での廃棄のロスを減らす取り組みにより生ゴミの排出が減少したこと等により、リサイクル率が前年より1.4%向上しました。

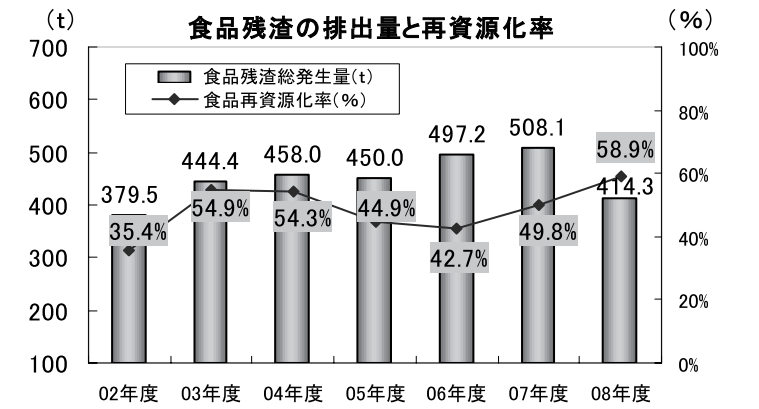


3. 食品リサイクルの推移

現在、店舗から排出される惣菜を自前で行う店舗の廃食油、全店舗の魚残渣、広島市内6店舗の野菜くず等の生ごみを再生利用業者によりリサイクルされています。

また各店舗では、廃棄ロス率削減に取り組んでおり、生産計画を作成し、それに沿って加工量を決め、値引き時間を細かく調整しています。

廃食油(10.6t) → 堆肥、肥料
魚残渣(116.8t) → 肥料
野菜くず(116.5t) → 堆肥



4. 容器包装リサイクルの再商品化委託料(2008年度分)

容器包装リサイクル法に基づき、プライベート商品、レジ袋、シッパー内袋などの使用量に応じて再商品化するための、委託料を(財)容器包装リサイクル協会と契約します。

自主回収分は委託料から差し引かれます。

素 材	用 途	A: 排出量 (kg)	B: 排出量 (kg)	A-B (kg)	委託料 (円)	主 な 容 器
無色ガラス	食料品	28,203	0	28,203	36,914	
着色ガラス	食料品	54,932	7,866	47,066	106,623	醤油ビン
その他ガラス	食料品	3,279	0	3,279	19,274	
PET ボトル	食料品	12,224	19,140	6,916	0	
その他紙	容器・食料品	135,541	0	135,541	58,613	
その他プラ	食料品	249,046	44,046	205,000	10,478,493	卵パック（APET）
	小売業	93,628	80,969	12,659	660,745	店舗のトレイ、レジ袋、無店舗の内袋
	包 装	14,298	0	14,298	3,477,500	インスタアーで使用するラップ
合 計		325,162			11,708,414	

環境保全活動

生協ひろしまの『省エネ総合計画』（3カ年計画）

生協ひろしまの事業活動に伴うCO₂の排出量を抑制し、供給高当たりの原単位で削減するための総合的な省エネ計画を策定し、自主行動計画の確実な実施を行うもので、生協ひろしまの事業活動に伴うCO₂排出で、全業種・事業所及び子会社を対象とします。

1.生協ひろしまの「温暖化防止自主行動計画」の実績と今後の計画

区 分	02 年度	03 年度	04 年度	05 年度	06 年度	07 年度	08 年度	09 年度	10 年度	11 年度
店 舗	108.8	103.2	102.8	102.3	104.1	104.7	97.0	98.5	114.0	120.0
共購・個配	349.6	345.2	336.4	331.9	333.8	342.2	341.0	348.0	349.0	350.0
供給高（億円）	458.4	448.4	439.2	434.2	437.9	446.9	438.0	446.5	463.0	470.0
供給高（02 年度比）	100.0%	97.8%	95.8%	94.7%	95.5%	97.5%	95.5%	97.4%	101.0%	102.5%
店 舗	5,570	5,503	5,784	6,236	6,103	6,103	5,989	5,968	6,301	6,331
共購・個配	2,999	3,058	3,107	3,052	3,313	3,216	3,091	3,085	3,035	3,003
物流・他	1,481	1,746	1,845	1,795	1,881	2,103	2,102	2,083	1,666	1,633
CO ₂ 排出（t）	10,050	10,307	10,736	11,083	11,298	11,422	11,183	11,136	11,002	10,967
CO ₂ 排出（02 年度比）	100.0%	102.6%	106.8%	110.3%	112.4%	113.7%	111.3%	110.8%	109.5%	109.1%
店 舗	51.19	53.32	56.26	60.96	58.63	58.29	61.75	60.59	55.27	52.76
共購・個配	8.58	8.86	9.24	9.20	9.93	9.40	9.06	8.87	8.70	8.58
原単位（t／億円）	21.92	22.99	24.45	25.53	25.80	25.56	25.53	24.94	23.76	23.33
原単位（02 年度比）	100.0%	104.9%	111.5%	116.4%	117.7%	116.6%	116.5%	113.8%	108.4%	106.5%
省エネ対策	・コース平準化（全支所） ・支所統合（安佐南支所） ・冷蔵庫改修（商品 C） エコオフィス（エアコンの温度設定、消灯確認等）の順守 全施設で省エネタイプの蛍光灯を使用									
CO ₂ 増加要因	・南館増設（大野） ・洗浄機設置（商品 C） ・C 船越出店 ・冷凍庫増設（商品 C） ・問合せ C 稼動（大野） ・壁の塗替工事（大野）									

注1)「温暖化防止自主行動計画」の基準年は2002 年度実績とする。

注2) 対象範囲は、店舗、無店舗事業と関わる物流と支援機能で委託部門は対象外。

▼これまでの省エネ対策による効果の推定値

省エネ対策	省エネ効果	CO ₂ 削減量／年
コース平準化	帰協時間のばらつきを少なくし約1 時間／週・支所退出を早める	0.6 t・CO ₂
支所統合（安佐南支所）	配送距離は増えるが、支所の冷凍・冷蔵庫、照明の使用電力を削減	10.0 t・CO ₂
冷凍庫の改修工事	高断熱及びコンプレッサーの性能アップで10%の改善	6.9 t・CO ₂
エコオフィスの徹底	照明、エアコンの無駄を省き初年度3%改善、その後は現状を維持	6.8 t・CO ₂
省エネタイプ蛍光灯	当初からラビットスタート形直管蛍光灯を使用し約3 %の省エネ	12.5 t・CO ₂

2.3カ年の省エネ実施メニューと効果

《導入スケジュール》

省エネ対策	対象	2009 年度	2010 年度	2011 年度
太陽光発電	新店	NEDO の補助申請 ●確定	設置	発電量の集約
LED 照明	新店	スポット照明で検証		新店導入拡大
オール電化(エコアイス)	新店	●新店に導入（使用電力及び電気代の検証）		
B100 燃料	支所	店舗の廃食油回収分の BDF 燃料（4～5 台）		
アイドリングストップ	支所	安全運転検証	省エネ性検証(3 台)	効果が確認出来ればアイドリングストップ標準仕様者の車両に暫時切り替え
木質ペレットストーブ	支所	●三次支所に設置（使い勝手等を検証）		
雨水利用	支所	仕様、単価の検討	設置可能支所から暫時設置	
ハイブリッド車	大野	営業車両の切り替え車両から暫時導入		
電気自動車	福祉	●福祉車両で実験導入（1 台）		
太陽熱温水器	福祉	●福祉施設で実験導入（1 箇所）		
燃料電池	福祉	●福祉施設で実験導入（1 箇所）		

リサイクルによるCO₂間接削減

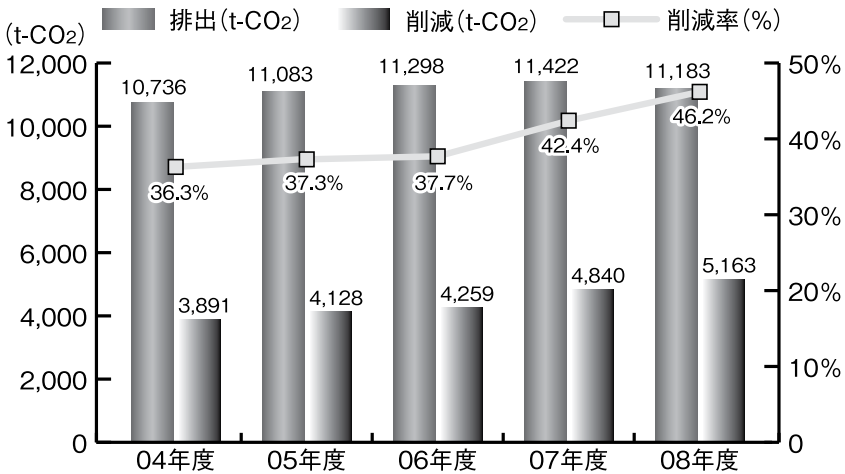
組合員からリサイクル品を回収することにより、資源を有効利用するとともに、リサイクルによるCO₂の間接削減にも貢献しています。

2008年度には全店舗で透明トレイの回収も開始しました。

項 目	回収実績量 (t)					再生品
	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	
飲用パック	157.7	160.6	136.5	130.9	123.5	コアフローロール (トイレトペーパー)
チラシ類	2,845.0	3,034.9	3,216.0	3734.9	4039.0	再生チラシ
卵パック	45.9	44.3	45.9	44.0	40.8	再生たまごパック
食用トレイ	27.0	25.5	24.3	23.7	23.5	再生トレイ
シッパ内袋	32.3	59.4	54.1	57.2	54.9	セメント焼成燃料など
ペットボトル	17.0	16.8	18.1	19.1	21.3	プラスチック原料
合 計	3,124.9	3,341.5	3,494.9	4,009.8	4303.0	

リサイクルによる間接削減量の推移

組合員が飲用パック・チラシ類等をリサイクルすることによって資源有効活用を進めると同時に、リサイクルによるCO₂の間接的削減にも貢献します。生協ひろしまが事業活動で排出した11,183tのCO₂に対して46.2%の削減に相当する量のCO₂の間接的削減ができました。



組合員への省エネ行動啓発

「暑さ対策省エネトライアル」のまとめ

家庭の省エネ行動を広げる取り組みや機会を積極的に展開することによって、家庭部門のCO₂排出削減を促進することを目的に「暑さ対策省エネトライアル」を開催しました。参加人数は501世帯となり、また参加者の1ヶ月の電気使用量合計では、昨年在166,389kWh、今年が163,012kWhと3,379kWhを削減されています。

1世帯平均では昨年380.1kWhから今年378.5kWhと1.6kWh削減されています。

変化していることとして、温度計を設置しエアコンを使用する温度を決めてエアコンをつける方、省エネエアコン・省エネ冷蔵庫への買い換え、就寝中に枕のかわりに保冷剤を使用し、エアコンの使用を抑えている方が増えています。

多かった省エネ事例

省エネ行動	06年度	07年度	08年度
	(人)	(人)	(人)
エアコンを控えた	170	258	298
よしずをした	107	165	203
冷蔵庫の開閉を減らした	105	132	174
打ち水をした	85	125	154
待機電力を削減	40	47	33
エアコンの設定温度をあげた	10	26	18
エアコンを買い替えた	7	33	35
冷蔵庫を買い替えた	41	32	38
植物を植えた(ゴーヤ等)	5	27	28
保冷剤を使用	11	30	33

組合員の環境学習会

生協ひろしまでは、組合員の環境、食育等の学習を積極的に進めており、毎年多くの参加者があります。2008年度は21,061人の参加がありました。

2008年度の学習会等の参加人数

学習会・行動	参加数
省エネ診断員養成講座	24人
省エネトライアル(暑さ対策等)	855世帯
省エネ・環境学習会	3,329人
「地産地消」交流会	973人
食育学習会(エコクッキング等)	15,880人

「1日エコライフ」結果報告

6月21日(夏至の日)を中心に前後1週間の内で、家族で取り組んだ省エネ行動を報告いただき、多くの世帯で省エネ行動の輪を広げる、又はきっかけづくりを目的に「1日エコライフ」を行いました。

354世帯の組合員さんに参加いただき、総計では、1日あたり243.9kg-CO₂/日の推定削減となり、1世帯あたりでは、689.0g-CO₂/日の推定削減になります。

省エネ行動が多かった行動

省エネ行動	参加世帯数 (世帯)	CO ₂ 推定削減 (kg-CO ₂ /日)
マイバック持参でお買い物	296	12.5
リサイクルできるものは回収に出す	268	28.7
炊飯ジャーで保温せず、レンジで加熱する	258	43.8
エアコンを使わず、扇風機にする	233	60.9
居間の電気を消す	193	27.5
エコタップで待機電力カット	182	2.7
掛け湯・シャワーをみんなで減らす	164	8.1
マイカーを使わず徒歩で移動	158	41.5



環境会計

2008年度 環境会計

環境会計は、環境保全に必要なコストと再資源化品の売却益等の経済効果を出し、費用対効果を見るためのものです。

環境保全コスト

2008年度は前年度に比べ、754万円のコストが削減できています。また一般及び産業廃棄物の処理・処分コストで722万円、トレイや卵パック等の自主回収コストで314万円のコスト削減ができています。

単位：千円

区 分	主な取り組み内容	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度
公害防止コスト	グリストラップ、浄化槽の点検、修繕	5,072	4,989	4,989	3,752	4,043
資源循環ポスト	ダンボール圧縮機、発泡減容機等	1,412	1,622	1,551	1,553	3,349
	チラシ、トレイ、卵パック等の自主回収	36,529	41,018	43,277	5,592	2,449
	事務系紙類、OCR用紙のリサイクル	982	1,237	2,815	2,705	3,065
	生ごみ、廃食油、魚残渣のリサイクル	7,946	6,145	6,734	8,208	8,038
上・下流コスト	一般及び産業廃棄物の処理・処分	45,267	47,946	36,627	39,185	31,961
	買い物袋持参促進のポイント還元	8,591	9,510	10,076	12,827	13,100
	再商品化義務委託料	9,541	11,585	12,877	12,827	11,708
管理活動コスト	ISO14001審査、内部監査	13,121	13,050	15,570	11,831	13,427
社会活動コスト	組合員の環境保全活動	197	4,048	4,773	4,329	4,129
		128,658	141,150	139,198	102,809	95,269

環境保全対策に伴う経済効果

リサイクルによる売却益が前年度から約2,600万増加しています。これは、買い物袋持参率増加によるレジ袋使用削減と容器包装の自主回収を強めたことによります。またリサイクル品の売却単価が上昇したため、売却益も大幅に増加していますが、2008年11月以降は急激に売却単価が下降しています。



単位：千円

区 分	効果の内容	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度
収 益	事業活動のリサイクル売却益 (ダンボール・PET ボトル等)	10,950	10,875	10,442	16,132	29,337
	組合員参加のリサイクル売却益 (チラシ・飲用パック等)	1,992	5,857	6,513	15,580	28,932
削 減 効 果	買い物袋の使用削減分	2,578	2,843	2,249	6,483	7,717
	再商品化委託料の削減分	5,137	7,350	10,945	7,951	7,976
合 計		20,657	26,925	30,149	46,146	73,962

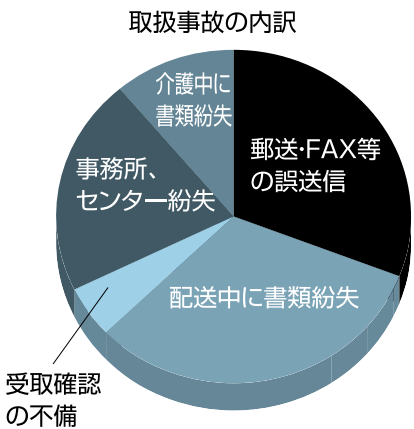
個人情報保護、労働安全衛生の取り組み

生協ひろしまでは、全職員に共通の手順書を配布し、個人情報取扱事故や労働災害事故を発生させない教育をおこなっています。

個人情報保護

整理整頓等を行い、手順を守ることで、2008年度は個人情報取扱事故が大幅に減少しました。

個人情報の取扱事故	
年度	件数
2005年度	45
2006年度	47
2007年度	33
2008年度	19



労働安全衛生の取り組み

2008年度に発生した労働災害は65件（通勤災害含む）です。発生を防ぐように職員に手順書等の教育、労働災害発生時には、検討会を行い同様の事故が起きないように共有をしています。

下記には過去3年間の事故事例を記載しています。
＜過去3年間の労災事故＞
174件発生（2006年1月～2009年3月）

○支所

事故内容	件数
荷降ろし中にトラック内で打撲、殺傷	16件
トラックのタラップや運転席から飛び降り負傷	13件
センター内で打撲、殺傷	13件
トラックのタラップより転落	12件
商品を持ち運び中に足がすべり捻挫	10件
トラックのリアパネルで頭を負傷	7件
センター内で足がすべって転倒	7件
商品を持ち運び中に階段を踏み外し転倒	6件

○店舗

事故内容	件数
鮮魚の調理時に支えていた手を殺傷	9件
商品加工時に支えていた手を殺傷	8件
加熱した調理器具や油でやけど	6件
鮮魚の調理時に背びれが指に刺さった	5件

○福祉（介護サービス提供中）

事故内容	件数
足がすべって転倒	2件
包丁等の落下物で負傷	2件



公益通報者保護

職場の中で法律や規則等の違反、セクハラやパワハラ等がある時には、職員が通報でき、公益通報者保護法にもとづき、通報者が不利益を被らないようにするため、業務ラインとは別にヘルプラインを設置しております。ヘルプラインは生協ひろしま内部以外に、外部の受付先も用意しています。

内部監査、ISO14001サーベイランス、コンプライアンス委員会

IMS内部監査

- 実施日：2008年9月3日～5日
- 監査範囲：IMS内部監査の範囲は、目的・目標を持つ全ての部門及び管理責任者
- 監査員：生協ひろしま37名＋他生協監査員12名

＜監査結論＞

昨年のIMS内部監査報告書、マネジメントレビュー、審査機関の指摘事項を受け、業務とIMSの一体となった運用が進むようにマニュアル及び規程等を改訂し、運用管理を強めることにより業務の効率化や事業実績への貢献などが内部監査を通じて見られました。これらのことから、IMSの妥当性と有効性を確認することができました。



＜改善提案＞

- ①更なる業務とIMSの一体化の推進
- ②面接制度とリンクした教育訓練の徹底
- ③達成手段の具体化
- ④監査を行う部門の実情に合わせた監査項番と監査員配置

ISO14001サーベイランス

- 実施日：2009年2月2日～4日
 - 登録範囲：（支所、SM店舗、広島商品センター、大野事務所、福祉事務所、コープハウジング㈱、コープサービス㈱）における組合員へのすべての事業活動、商品、サービス
 - 審査員：JACO 牧川安之 主任審査員 鳥崎公寛 幹事審査員
 - 審査結果：向上
- 廃棄物処理法等、適切に運用管理がなされ順守状況に問題がなく、また順守評価のしくみに関し大きく充実向上していることや、内部監査のチェックの方法、指摘内容など概ね有効性の高いものであること等から、マネジメント仕組みの改善、改訂や目的目標の達成に向けて、種々工夫をしているものが見られ適切に維持されていると評価をいただきました。

コンプライアンス委員会

生協ひろしまがCSR経営を推進するにあたって、コンプライアンス及び社会貢献活動の取組状況について、第三者によって構成される委員会によって客観的な評価及び提案を受け、CSR経営の継続的改善を促進することを目的として委員会を開催しています。2008年度は2008年7月30日と2009年3月9日の2回開催し、生協ひろしまの事業・活動に対し、意見交流を委員の皆様と生協ひろしまの常勤理事等が意見交流をしました。

■委員一覧

- 広島修道大学 人間環境学部 教授 森嶋 彰氏（委員長）
- （社）広島県銀行協会 専務理事 早川 正彦氏
- 広島商工会議所 専務理事 藤井 昌平氏
- 中国新聞社 編集局紙面審査部 長曾我部 誠氏
- 弁護士 広島弁護士会会長 石口 俊一氏
- （財）広島県環境保健協会地域活動支援センター長 薦田 直紀氏
- （財）広島県女性会議 寺町 志津子氏
- 広島大学大学院 生物圏科学研究科 環境循環系制御学専攻 准教授 中坪 孝之氏

■委員会でのご意見

委員の方より「法順守の精度をあげる必要がある」「危機管理に弱い所がある」「トップランナーとしての役割を果たして欲しい」等のご意見をいただきました。



生協ひろしま

2009年度 社会・環境報告書

発行：2009年8月
発行者：生活協同組合ひろしま
〒739-0495 広島県廿日市市大野原一丁目2-10
問い合わせ先：経営企画室 CSR推進グループ
TEL 0829-50-0543 FAX 0829-50-0362
URL <http://hiroshima.coop>
E-mail hcoop@mail.hiroshima.coop

